

「現象学的社会学の系譜 - シュッツから会話分析まで」

滋賀医科大学 平英美

シュッツ以降、半世紀のあいだ、バーガー＝ルックマンをはじめとして現象学的社会学は、多様な展開を見せている。とくに、ガーフィンケルのエスノメソドロジーやそこから派生した会話分析は、理論的にも経験的研究においてもインパクトを与え続けている。さらに、エスノメソドロジーに触発された社会問題の構築主義や科学的知識の社会学も多くの経験的研究を産出してきた。しかし、その一方で、多様化したエスノメソドロジーにはいくつかの亀裂が生じ、しばしば論争が見られるようになっている。発表では、シェグロフ等を取りあげながら、「シュッツ的な現象学」がどのように継承されたのか、あるいは継承されなかったのか、という視点からエスノメソドロジーの現在を改めて検討してみるつもりである。